

お庫裏からの つぶやき

前回、飼い猫モモの様子をお伝えしてから十年。特に具合が悪くなるわけでもなく穏やかに過ごしてきましたが、歳を重ねるとやはり動きは少し違つてきました。

以前は、流し台や洗面台に飛び乗つて、蛇口から流れる水を飲むのが好きでした。今は飛び乗ることはなく、器に汲んだそれもお湯を好んで飲みます。近くの猫が遊びに来ると、尻尾を太く立て体を大きくして威嚇していましましたが、今は「お好きにどうぞ」という感じ。

境内では、草陰から草陰へ忍者のように走り回つていたのに、今はひなたぼつこが気持ちよさそうです。

2020年5月1日発行
青森県北津軽郡板柳町
大字板柳字土井241
TEL. 0172-73-2016

第8号



横浜町の菜の花畠

法事をどうつとめたらいいの?

今日のこの状況の中、「法事をどうつとめたらいいの?」「お客様をご案内していいの?」、はたまた「ご葬儀の時はどうする?」と迷っている方がたくさんいらっしゃると思います。

今、お寺での法事は、本堂入り口でまず手の消毒。そしてお参りは間隔を空けて座つていただいています。読経の際、皆さんとは適当な距離があり、マスクは外しております。

これまで、ご法事の後「茶の

さて、この度『正休寺だより』を十年ぶりに発行することとなりました。これは、「新型コロナウイルス」の感染拡大によつて、お寺や地域の諸行事が次々と中止に追い込まれる中、皆様に少しでもお寺からのお情報をお届けしたいと願つて発行するものです。

お寺では、二月二十八日の初御講は、毎年様々なイベントを企画し皆様に喜んでいただいています。今年は「お寺で楽しむクラシック音楽」を企画し、その準備を進めていました。しかし残念ながら、各種イベント等の自粛要請を受け、直前での中止を決定いたしました。また、三月九日から十一日まで二泊三日の日程で予定していた、京都での「正休寺総代会研修」を中止し、さらには、三月二十六日(二十八日)の永代経法要を延期いたしました。

なお、毎月の「御講」並びに「正休寺同朋の会」などは、当面の間中止といたしますが、再開できる目途がつき次第改めて皆様へご案内申し上げます。

いま、イベントの自粛、さらには外出の自粛が要請され、見えない「ウイルス」から、自分や大切な人を護ろうとする行為によつて、一部では新たな差別・排除が生まれつつあります。いま改めて人と人との「繋がり」「共存」「絆」が私たちに求められているのではないでしようか。

「間」でお茶を飲みながらのお話をさせて頂いていましたが、当面は控えさせて頂きます。

ご葬儀に関しては、この状況下の中で規模を縮小せざるを得ないこともあります。とはいってもマスクの入手が困難です。出来る限りの予防をしてお参り下さい。

ご相談、また気になる事がございましたら、お気軽にお電話下さい。

発行に当たつて

正休寺住職 高澤暢男

第8号



マイペースなモモ

私たちが出先から帰ると、玄関先で待つていて、お帰りの「にやー」を言つてくれましたが、今では私たちがモモの側に行き、「ただいま」の報告。何だかなあ。だけど、疲れたなつて時も、イライラするつて思う時も、モモを見ると自然に顔がほころんでも、今だから出来ることもあるはず。走り回つて落ち着きがなかつた頃のモモとは違い、遊びもお散歩も長続かせず、すぐゴロンと寝転がつてしまふモモだから笑つてしまふんです。

私たちもそう。衰えばかりが目につけますが、今になつたから気付ける事、そして出来る役割があるようになります。顔や手のしわはその人の年輪。不具合が出てきた体も、永年お世話になつた相棒。「ありがとう。もう少しよろしくね」と仲良く付き合つていきたいものです。

(坊守)

でも、今だから出来ることもあるはず。走り回つて落ち着きがなかつた頃のモモとは違い、遊びもお散歩も長続かせず、すぐゴロンと寝転がつてしまふモモだから笑つてしまふんです。

私たちもそう。衰えばかりが目につけますが、今になつたから気付ける事、そして出来る役割があるようになります。顔や手のしわはその人の年輪。不具合が出てきた体も、永年お世話になつた相棒。「ありがとう。もう少しよろしくね」と仲良く付き合つていきたいものです。

皆さん、毎日いかがお過ごしですか。

（坊守）



関東二十四輩めぐり

◇ 親鸞聖人直弟子のお寺 ◇

また、茨城県の『美和村史』には「照願寺に安置されている本尊（阿弥陀如来立像）は、鎌倉時代後期から南北朝時代のものと考えられ、有力な保護者の存在と経済力の旺盛さを思わせる」と記されており、念信の教化が広まり照願寺の隆盛をもたらしたことがうかがわれます。【写真】は県道から山門につながる参道で、右にある桜の古木は「見返りの桜」と言い、聖人が訪れた時、一夜にして満開になり、他の度も振り返りながら念仏したところです。

山には、高澤城跡があり、山頂や尾根に空堀の遺構が発見されています。念信は、僧侶と武士（城主）の二面性をもつていたのであります。

なお、その照願寺初代の念信の二男山門によれば、氏信は觀世音菩薩の靈告を受け、稻田（現在の茨城県笠間市）に滞在していた親鸞聖人を尋ねて弟子となり、「念信」という法名を賜わり、その後に草庵を開いたと伝えられています。

親鸞聖人が越後への流罪が許された後、関東での教化活動をされます。その時の直弟子によって建立されたお寺を「関東二十四輩」と言います。

今回は、茨城県常陸大宮鷲子にある照願寺を尋ねます。ここは、正休寺の本家寺で、開基は地元の豪族であつた、高澤城の城主高澤氏信と言いまし

た。寺伝によれば、氏信は觀世音菩薩の靈告を受け、稻田（現在の茨城県笠間市）に滞在していた親鸞聖人を尋ねて弟子となり、「念信」という法名を賜わり、その後に草庵を開いたと伝えられています。

その後、お供十数人と共に一五五七年、現在の浪岡に移り、さらに弘前（現・岩手県）に移り、正休寺を建立したのでした。

現在、正休寺では、一八三三年に照願寺より、親鸞寺院のよしみによつて、本願寺第十代顕如上人の「十字名号」を頂戴し寺宝としています。

